

**Windom** の解答速報 昭和大学(医)Ⅱ期 英語

## 【解答】

1

1. D
2. C
3. A
4. B
5. B

2

1. B
2. C
3. E
4. C
5. C
6. D
7. A
8. D
9. C
10. B

3

1. T
2. F
3. F
4. T
5. F
6. F
7. T

4

1. Actually, [I heard the news at first hand from one of my] colleagues.
2. I trust her. [She is as good as her word].
3. He [was so tired that he fell asleep in spite of himself].
4. [Some lawyers think that the death penalty should be done away with].
5. [It stands to reason that his proposal was rejected].

5

- 問1 E  
問2 C  
問3 D  
問4 喘息と食物アレルギーをもつ患者がひどい喘息の発作を経験する可能性は、臨床上食物アレルギーと定義される症状を持たない患者よりも 6.9 倍高かった。  
問5 以前の研究は、自己申告に頼っており、食物特異性を有する血清における免疫グロブリンの濃度に頼っていなかった。

## 【総評】

I 期が大問 4 題だったのに対して、Ⅱ期は 5 題になった。この内訳の変化は、I 期では出題されなかった英作文問題が加わったことによる。ただし、難易度で言えば、全体として I 期よりもやや易しい。したがって、時間的には無理のない出題になっている。

## 【各論】

1. アクセント問題 特に問題はない。市販の問題集の知識で解ける。
2. 語法・文法問題 I 期よりも易しい。4 と 6 が文法問題である以外は、語彙力で解ける。
3. 読解問題(内容一致) いずれの選択肢でも、第 1 段～第 5 段が問われていない。その意味では、設問がテキスト全体を網羅していないので、選択肢の構成にもう少し工夫が必要であったと言えるだろう。  
また、選択肢の 1 に関して言えば、本文の第 6 段では **up to fifty percent** と述べられているが、選択肢では単に **fifty percent** としか述べられていない。**up to** を厳密にとれば、答えは F になる可能性もある。その意味では、曖昧さが残る出題であったと言えよう。
4. 英作文問題 一語補充型の整序英作文で、昭和大学医学部特有の出題である。難易度は多少高いが、5 を除けば普通の語彙力と構文力で解ける。5 は「～は当然だ」を表すのに、**It stands to reason that** ～を用いるのはかなり難しい。
5. 読解問題(空所補充・下線部和訳・内容説明) 空所補充は易しめ。下線部和訳は同格の **of** と形容詞句の後置修飾と比較構文がポイントとなっている。内容説明は当該箇所(第 8 段第 2 文)の **because** 節を訳せばよい。・・・(答)